



一枚、一枚に、魂を込めて。
次の世代に伝えたい、職人の技と心。

「最近の若い職人は、丁寧さよりもスピードを重視してしまう。それじゃあ、いい家は建ちません」。そう話すのは、岡山県でタイル張りに携わる2人のマイスター、近藤さんと岡本さん。仕事現場で感じている危機感を発端に、岡山県タイル技能士会で実技指導を実施することになりました。職人に大切な技と心を受け継ぐべく、指導にあたります。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 岡山タイル技能士会

所在地 岡山県岡山市南区豊成3丁目24-7-1
活動内容 タイル張り技能士の育成

会員企業数 27社
設立年 昭和51年



「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

岡山県の技能レベルを上げ、
新たなマイスターを輩出したい。

私は約30年もの間、岡山県タイル技能士会に関わってきました。県内のタイル職人の技能向上と情報共有のため、縦横のつながりを密にすべく、これまで取り組んできたわけですが、今後も一層、会の活動に力を注ぐ必要性を感じています。というのも、岡山県はひとり親方で事業を行う職人が多い街。そのため、他の職人と現場が一緒にならない限り、新しい商品情報やそれに関わる技能の習得が遅れてしまいます。そうした懸念を払拭するために技能士会が間に入り、講習会や勉強会を行うことで技能向上に貢献できたらと思っています。また今回の実技指導から近藤マイスターと岡本マイスターに指導してもらいましたが、今後は彼らのような若い世代が積極的に会を引っ張ってくれることを望みます。彼らのような腕の立つマイスターが先頭に立つことで、全体の士気向上につながりますし、彼らに続いて素晴らしいマイスターが岡山に増えると嬉しいですね。



岡山県タイル技能士会
会長 植田和良さん

■ 実施したカリキュラム


指導の概要

実施回数：1回 受講者数：28名
実施場所：岡山職業能力開発促進センター



■ プログラム内容

- ・弾性ボンドの適正使用の指導
- ・新タイル材の施工方法の指導


教育プログラムの解説

施工するタイルや使用する接着剤に合わせて、正しい道具の選定を行い、適正な使用方法、施工手順が踏めるように指導。実際のタイルとボンドを使って、注意すべきポイントを解説しながら、実演を交えた指導を行いました。また、受講者に対して、適切な道具の選定と正しい施工をすることの大切さを伝え、意識の向上を図りました。

座談会 INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_左)

近藤 賢司さん

昭和42年生まれ
平成15年度 1級技能士「タイル張り(タイル張り作業)」取得
平成29年度 厚生労働省 ものづくりマスター「タイル張り」認定
平成29年度 全技連マスター認定

岡山市で13年間、事業を営むベテラン職人。タイル張りに関して、積極的に情報収拾や技能習得を行っており、造詣が深い。

受講した若手技能者 (写真_右から2番目)

山田 尚弥さん | 平成11年生まれ

21歳の若手タイル張り職人。岡山市内でタイル張りの仕事に携わる。佑弥の兄。

自分の弱点を見つめ直し、 正しい技能を身につける場に。

近藤さん みなさん、今日はお疲れ様でした！岡山県タイル技能士会の集まりには何度も参加しているんですが、今回、僕と岡本くんはマスターになってはじめて、指導者として参加させていただきました。28名を集めるのも大変だけど、教えるのも緊張するね。



岡本さん 近藤さん、はじめてにしてはすごく喋りが上手でしたよ(笑)。冗談はさておき、尚弥と佑弥は、僕ら2人と仕事現場で一緒になることも多いけれど、技能士会の実技指導に参加してみて、何か感じたことはある？

山田(尚)さん 近藤さんからも岡本

さんからも、仕事現場でタイル張りの指導をしてもらう機会がありますが、仕事の手を動かしながらや休憩の合間などに教わる人が多いので、今回のようにしっかり時間をとってイチから教えてもらうというのはとても新鮮でしたし、わからない箇所をきっちり補うことができました。

山田(佑)さん 現場では、手とり足とり教わるというよりは、自分で手を動かして試行錯誤しながら仕事を覚えていくことが多い。だからこそ、いつの間にか自己流の方法になってしまい、正しい技能が抜け落ちてしまうことも。今回の実技指導で改めて注意すべき点を認識できました。

基本を大切にすることこそ、 タイル張りの美しさを保つ秘訣。

山田(尚)さん 例えば、弾性ボンドの適正使用方法。ボンドを壁に塗るときは櫛目山の大きなコテを選んで爪をしっかり立てないと、ボンドを均一な厚みに出すことができない。厚みが出せない、タイルにボンドが付かない“ムラ”

ものづくりマスター (写真_右)

岡本 栄一さん

昭和50年生まれ
平成23年度 1級技能士「タイル張り(タイル張り作業)」取得
平成29年度 厚生労働省 ものづくりマスター「タイル張り」認定

県内で4番目のものづくりマスター認定者。岡山県でタイル張りの事業を営みながら、後進の育成に力を注いでいる。

受講した若手技能者 (写真_左から2番目)

山田 佑弥さん | 平成9年生まれ

兄に負けじと、岡山でタイル張りの腕を磨く。技能も伸び盛りの、19歳の若き職人。

ができるため、剥がれやすくなってしまいます。接着剤に応じて、正しい道具を選び、正しい使い方をします。基本ではありますが、改めて勉強になりますね。



岡本さん そうそう、あとはタイルを張った後、上からギュッと押さえつけること。そうしないと施工直後はうまく引っ付いていても、時間が経つと剥がれ落ちてしまう。こうした基本的なポイントを、改めて若い職人には伝えていくことが大切だと思っています。

近藤さん 最近、接着剤やタイルなど製品自体の性能が向上し、昔よりも手軽にタイルを張れるようになりました。簡単に言えば、手間が減ったんです。その分、早く施工できるし、使用する材料も少なくて済むようになった。それでも、手を抜いてよくなった訳ではあ

正しい道具の使い方、施工方法を学ぶ。



丁寧に、正確に、美しく。 若者よ、“真”のタイル張り職人であれ。

りません。私たちは職人である以上、手仕事に対してお金をもらう“技能士”です。丁寧に、正確に、美しく。いつまでも永続的に、最高の状態で残っているタイル張りを手がけていく必要があると思っています。

手から手へ。 匠の技は受け継がれる。

山田(佑)さん 自分は、職人の世界に入って2年半。覚えることの方が多い身ですが、一つひとつできることが増えていくのは楽しいですね。今はタイル割に悪戦苦闘しているため、次回はその実技指導があると嬉しいですね。

山田(尚)さん 自分は4年半、タイルの

仕事に携わってきましたが、まだまだ半人前。早く一面すべてをひとりで手がけられるようになりたいですね。マスターおふたりの仕事を見ていると、同じ仕事をするにしても手際や美しさが僕らとは雲泥の差です。道のりは長く険しい気もしますが、しっかりと技を身につけて頑張りたいと思います。

近藤さん 岡山のタイル張り職人は、悲しいですが年々減ってきているのが現状です。ただ、僕たちはこの仕事に誇りを持っていますし、このまま衰退して欲しくはありません。若い人に私たちが培ってきた技能を傳承し、タイル張りのやりがいや面白さを伝えていきたい。それが、これからの課題です。

岡本さん そのためには、自分たちの

技能も高めていく必要性を感じます。講師として下手な技能は見せられませんし、責任を持って教え伝えていくことが大切。今後も技能士会の活動を通じて、岡山のタイル張りを盛り上げていきたいですね。そして、マスター認定者もたくさん生み出せたら嬉しいなあ。

